

貨物含む中核地区再整備へ

■蘭スキポール空港、2050年見据え

オランダのアムステルダム・スキポール空港（AMS）は、2050年を見据えた長期再整備計画「スキポール・センター・マスタープラン」の一環として、貨物地区の再編を進める。カーブターン滑走路の反対側にある空港南東部に新貨物施設「Vracht 15」を開発し、貨物機能の移転先とする。近代的で集約化され、アクセス性の高い貨物地区を形成し、業務効率化や良好な労働環境、持続可能なオペレーションに対応する。

同空港をハブとするKLMオランダ

航空はすでに、貨物施設を現在のスキポール・センターからVracht 15へ移転することで合意している（3日付既報）。

同マスタープランは、50年時点の空港中核地区の将来像を示すもの。旅客体験だけでなく、空港での労働環境、航空会社向けサービスの改善に加え、持続可能性の向上や騒音低減を図る。

KLM貨物施設の移転により、同施設が所在するスキポール・センター側では、大型・ワイドボディー機に対応

する新駐機スポットや、南部新旅客ターミナル「ターミナル・サウス」の開発に必要な用地を確保する。

環境面では、30年までに空港・地上業務に伴う排出量を19年比90%削減する目標を掲げる。新施設はガスを使わない低排出型の建物として、最新の環境基準に沿って整備する方針。スキポール空港は35年までに約100億ユーロ（約1兆8500億円）を投じ、持続可能で近代的な空港インフラの整備を進めるとしている。